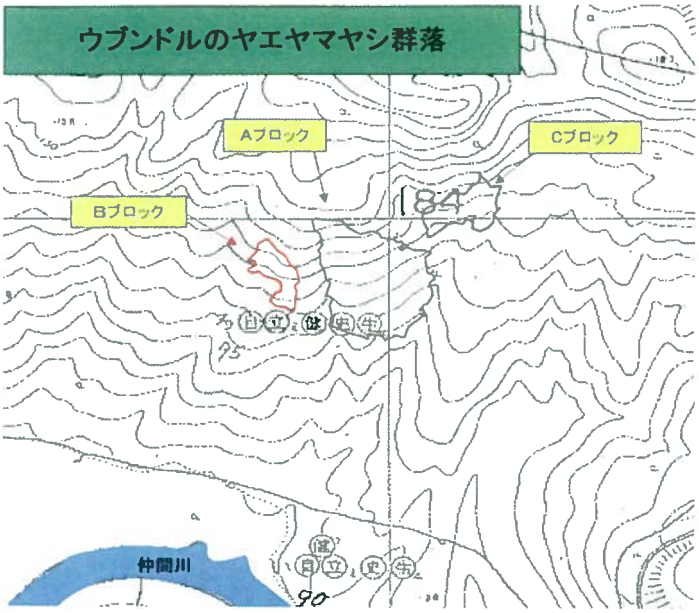
「ウブンドルのヤエヤマヤシ群落の現況調査」

九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター



仲間川中流域には、石垣島及び西表島だけに分布し、１属１種の固有種であるヤエヤマヤシが群落をなして生育しています。この仲間川に生育している「ウブンドルのヤエヤマヤシ群落」は他の２箇所と同様に国指定の天然記念物になっていますが、これまで群落内での実態調査が行われていませんでした。

西表島では、近年、大型台風の襲来が常態化し、ウブンドルのヤエヤマヤシ群落における実態把握が急務となっておりました。西表森林環境保全ふれあいセンターでは昨年１０月に、今後の環境変化等に伴う基礎データと資するため群落内の現況調査を実施しましたので、その内容について本誌面をお借りしてご紹介致します。

１　面積

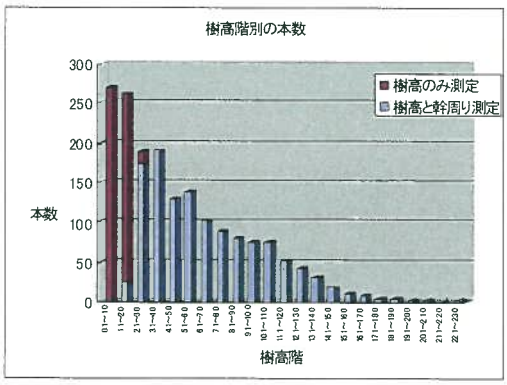
群落内を調査したところ３つの団地に分散して群落をなしていることがわかりました。それぞれの面積は、Ａブロック１．０６ ha、Ｂブロック０．１８ ha、Ｃブロック０．２６ ha、合計１．５ ha でした。

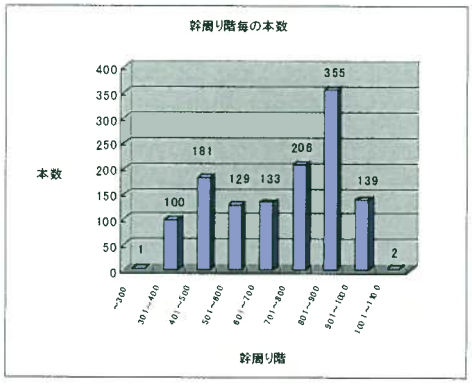
２　本数

群落内のヤエヤマヤシについて毎木調査を行ったところ、Ａブロック１，２６４本、Ｂブロック２６５本、Ｃブロック２４０本、合計１，７６９本でした。ha 当たり本数に換算すると１，１７９本となります。

３　樹高

調査した１，７６９本の樹高は０．２ｍから２２．８ｍまでの範囲にあり、平均樹高は５ｍ、最も多い樹高階層は０．１ｍ以上１ｍ以下で２７０本でした、特に、２ｍ以下のヤエヤマヤシ群落の後継樹と思われる低木が多いことは今後の群落維持にとって光明と思われるところです。





４　胸高部の幹周り

胸高部に木質部が認められるヤエヤマヤシ１，２４６本について幹周りを測定したところ２６．９ cm から１０２．２ cm までの範囲に分布しており、平均幹周りは６９．５ cm でした。

５　考察

今回の現況調査から後継樹が多数確認されたことは、将来の林分構成として好ましい状態にあると考えられますが、これまでの台風等の強風により倒木や幹折れ等の被害木も見られ、今後も大型台風の襲来が続くと後継樹が多数あるとはいえ予断は許さず、これからも経過観察が必要と考えます。また、Ａブロックの中央に最大段差約 2 m、延長約 40 mの地滑りと思われる地形変化が見られることから、この経過観察も必要です。